

システム更改用チェックシート

記入年月日

部／課

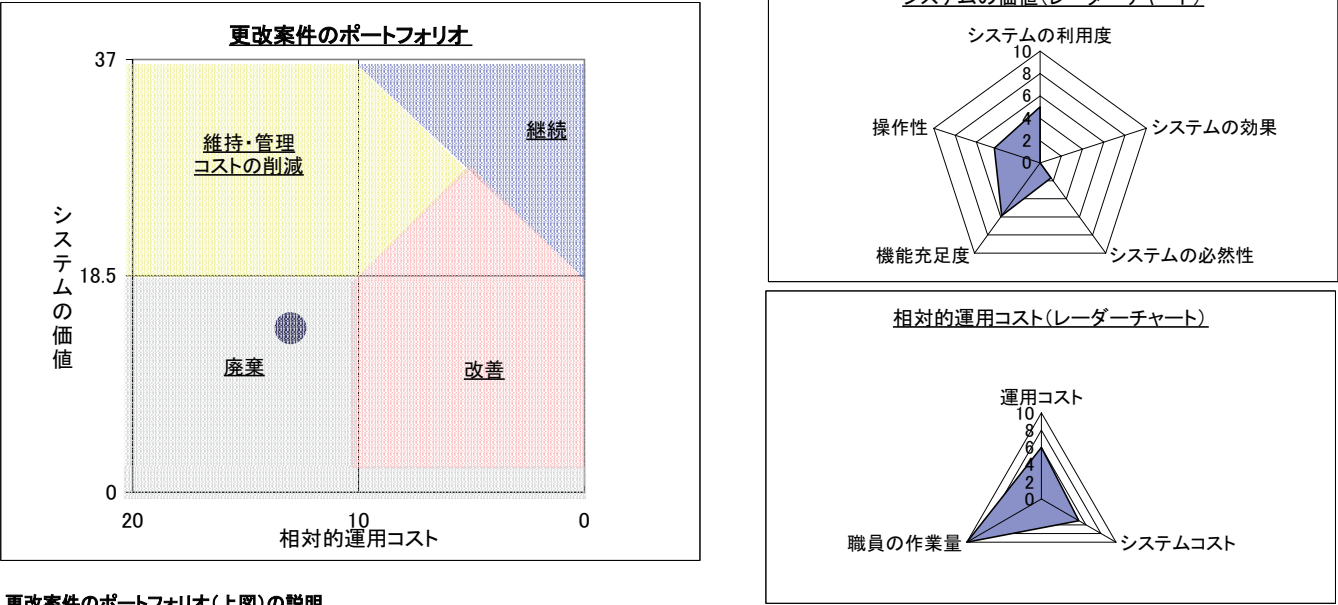
システム名SAMPLE

システムの価値							
分類		チェック項目				回答／合計	
システムの必要性	システムの利用度（6点）	利用頻度	3 現在、当該システムを毎日利用している	1		3	14
			2 現在、当該システムを一週間に数回(2回以上)利用している				
			1 現在、当該システムを一週間に1回程度利用している				
			0 現在、当該システムを利用しない週がある				
		計画達成率	3 現在、当該システムの利用者数や利用時間は、当初の計画数を維持している	2			
			2 現在、当該システムの利用者数や利用時間は当初の計画の80%程度となっている				
			1 現在、当該システムの利用者数や利用時間は当初の計画の50%程度となっている				
			0 現在、当該システムの利用者数や利用時間は当初の計画の20%程度となっている				
	システムの効果（6点）	コスト削減効果	3 当該システムを導入した結果、直接的な人員削減に結びついた	0		0	
			2 当該システムを導入した結果、業務の工数削減につながった				
			1 当該システムを導入した結果、職員の知識・経験を問わなくなった				
			0 当該システムを導入した結果、業務削減効果はなかった				
		向上効果	3 当該システムを導入した結果、業務に要する処理時間が日単位で短縮された	0			
			1 当該システムを導入した結果、業務に要する処理時間が分単位で短縮された				
0 業務に関する処理時間は変わっていない							
システムの必然性（6点）	実施根拠	3 法定の事業と関係があったため、当該システムを導入した	0		1		
		2 行政計画に位置づけられていたため、当該システムを導入した					
		1 議会・市民からの要望があったため、当該システムを導入した					
		0 上記以外のレベルで必要であったため、当該システムを導入した					
	事業環境の変化	1 現在も、計画当時と事業環境は変わっていない	0				
		0 現在では、計画当時から事業環境が変化しており、当該システムの必要性が変化している					
	代替可否	2 現在、この事業手法以外に方法はない	1				
		1 現在、代替手段も存在するが、この事業手法が最善					
システムの利便性	機能充足度（12点）	◎ レスポンス(システムの動作)が遅いと感じることが多い	いいえ	2	7		
		◎ 当該システムの安定性が低い(度々停止する、障害発生率が高い)	はい	0			
		◎ 技術の陳腐化やバージョンの低下が原因で、本来必要な機能の導入やデータの保管ができないことが多い	いいえ	2			
		◎ 当該システムのセキュリティ対策(ウイルス対策、適切なアクセス権の付与)に不安がある	いいえ	2			
		○ 利用者の目的を達成させるには当該システムにあるデータや情報だけでは不十分である	はい	0			
		○ 利用者の目的を達成させるには、当該システムの他に別の業務や行動を行う必要がある(例外処理等)	はい	0			
		○ 当該システムで保有しているデータが他システム等に活かされていないと感じる	いいえ	1			
		○ 当該システムの能力や機能上の制限から、必要なときに利用できないことがある	はい	0			
	操作性（7点）	当該システムの利用者が実際に利用できるまでの手続(申し込み等)に時間がかかる	はい	0	3		
		該当する情報を見つけるまでに手間がかかる(情報が整理されていない)	はい	0			
		実際の業務フローと当該システムの画面遷移がマッチしていない部分がある	いいえ	1			
		当該システムは技術的な仕組みを理解していないと操作できない	はい	0			
		当該システムに対して同じようなデータを何度も入力することがある(データ入力作業に手間がかかっている)	はい	0			
		当該システムの重要なデータや情報が画面レイアウト的に目立つように配置されていない	いいえ	1			
当該システムを操作する際、エラーや誤操作が発生することが多い	いいえ	1					

(※1)機能充足度については、当該チェック機能が損なわれた場合、早急に対策が必要なチェック項目(◎)と、利用に支障がないチェック項目(○)に分類した。早急に対策が必要なチェック項目(◎)は、配点を「2点」とした

相対的運用コスト										
分類			チェック項目				回答／合計			
外部コスト	運用コスト (5点)	★ 当該システムにおける運用保守の仕様書がない(以下の設問は本チェック項目に「いいえ」とした場合に回答する)						いいえ	0	3
		－ 運用保守の仕様書の中に、当該システムの障害復旧までの目標時間を明記していない						はい	1	
		－ 運用保守として、仕様書に明記せずに、設定変更やアプリケーション修正等のサービスを受けている						はい	1	
		－ ヘルプデスク契約を結んでいるが、仕様書にヘルプデスクの対象期間を明記していない						はい	1	
		－ 運用保守サービスの報告を定期的に受けていない						いいえ	0	
	システムコスト (8点)	当該システムのシステム構成図(当該システムを構成する全体が把握できる図)がない						はい	1	4
		当該システムにおけるハードウェアのスペック(CPU、メモリ、ハードディスク等)一覧がない						はい	1	
		当該システムに導入されているソフトウェアの一覧がない						いいえ	0	
		当該システムにおけるソフトウェアライセンス管理を行っていない						はい	1	
		セキュリティパッチの自動配信の対象となっていない【情報システム担当部門が回答】						はい	1	
		庁内に同じようなシステムが動いている(同じようなデータを持っているシステムがある) 【情報システム担当部門が回答】						いいえ	0	
		当該システムの機能を他システムや他の機器に集約することができる【情報システム担当部門が回答】						いいえ	0	
		現在の費用より安価な代替サービスで、当該システムの機能を実現することができる 【情報システム担当部門が回答】						いいえ	0	
内部コスト	職員の作業量 (6点)	システム管理	3 当該システムに対して、日次または週次で職員が作業を行わなければいけないことがある				3	6		
			1 当該システムに対して、月次または年次で職員が作業を行わなければいけないことがある							
			0 組織変更等の例外的な要因を除いて、当該システムに対して職員が作業を行うことはない							
		トラブル対応	3 当該システムのトラブルが多く、その度に担当職員の対応が強いられてしまう				3			
			1 当該システムのトラブルは少ないものの、トラブル時には担当職員の対応が必要となる							
			0 当該システムのトラブルも少なく、トラブル時においても担当職員に手間がかかることはない							

★のチェック項目に「はい」と回答した場合は、「仕様書の内容」に関するチェック項目に「いいえ」と回答しても、「ベンダーのPersonnel費」の合計点は自動的に5点になる



更改案件のポートフォリオ(上図)の説明

継続	当該システムの機能及び構成のまま契約を延長して利用したほうがよい
維持管理コストの削減	当該システムの無駄な機能や構成を見直して、維持管理コストがかからないような構成や保守サービスで更改したほうがよい
改善	当該システムの機能や操作性について見直しを行い、より価値の高いシステムとして更改したほうがよい
廃棄	必要な機能を他システムに統合する若しくは集約する等して、当該システム自体の廃棄を検討したほうがよい

(※2)チェック項目の網掛けについては、当該システムの内容を確認し、情報システム担当部門が回答する

(※3)「システムの価値」「相対的運用コスト」のレーダーチャートは各項目の点数を10点満点に換算してグラフ化したものである